

## 〈認定医更新における単位取得が認定された学会・研究会の活動状況〉

### (1) 日本精神神経学会

事務局住所：〒113-0033  
 文京区本郷2-38-4  
 本郷弓町ビル5F  
 TEL : 03-2814-2991 FAX : 03-2914-2992  
 e-mail : info@jspn.or.jp  
 URL : https://www.jspn.or.jp/  
 代表者：<理事長> 武田雅俊  
 事務局長：山根信行  
 会員数：16,853名 (2016年3月)  
**【平成27年度活動状況】**  
 第111回日本精神神経学会学術総会  
 期 間：平成27年6月4日(日)～6日(土)  
 テーマ：翔たくわれわれの精神医学と医療—世界に向けてできること—  
 場 所：大阪国際会議場・リーガロイヤルホテル大阪

### (2) 日本思春期青年期精神医学会

事務局住所：〒160-8582  
 東京都新宿区信濃町35  
 慶應義塾大学医学部精神神経科学  
 教室内  
 TEL : 03-5363-3829 FAX : 03-5379-0187  
 e-mail : jsap.gim@gmail.com  
 代表者：<会長> 皆川邦直  
 事務局長：守屋直樹  
 会員数：約353名  
 機関紙：思春期青年期精神医学 (年2回発行)  
**【平成27年度活動状況】**  
 第28回大会は、2015年7月11日(土)、12日(日)生地新氏(横浜)を大会会長として、横浜市、横浜開港記念会館にて開催された。  
 シンポジウムは、「思春期の精神科入院治療の展開」というテーマで、関谷秀子氏(関東中央病院)が思春期の力動的入院治療について、青木桃子氏(埼玉県立精神医療センター)が重

症の思春期患者の入院治療について、庄紀子氏(神奈川県立こども医療センター)が思春期患者の入院治療で何ができるかについて発表された。

ワークショップは、「児童福祉施設における思春期の心理ケア」と題して、内海新祐氏(川和児童ホーム)のほか、島崎智子氏(三春学園)、早川洋氏(子どものこころのケアハウス嵐山学園)を招き、学術的な討論がなされた。教育講演は、宮岡等氏(北里大学)が『うつ病の薬物療法の諸問題』のテーマで話された。

また、学術講演は、齋藤万比古氏(愛育クリニック)が、『思春期の不登校の精神医学』というテーマで講演された。

### (3) 日本乳幼児医学・心理学会

事務局：日本乳幼児医学・心理学会事務局  
 住 所：〒603-8148  
 京都市北区小山西花池町1-8  
 (株)土倉事務所内  
 TEL : 075-451-4844 FAX : 075-441-0136  
 e-mail : aei04761@nifty.com  
 URL : http://www.jamps.org/  
 代表者：<理事長> 小林隆児  
 事務局長：野邑健二  
 会員数：一般278名 学生34名  
**【平成27年度活動状況】**  
 <第25回大会>  
 開催日時：2015(平成27)年11月7日(土)  
 場 所：東洋英和女学院・六本木キャンパス  
 小学部講堂  
 会 長：久保田まり(東洋英和女学院大学人間科学部)  
 テーマ：愛着由来の傷つきと、そこからの回復：子どものresilienceを中心に  
**【プログラム内容】**  
 会長講演「子どもの“こころ”の傷つきとresilience」久保田まり(東洋英和女学

院大学人間科学部)

シンポジウム「愛着の傷つきと、子どもの resilience」

- 趣旨説明：久保田まり（東洋英和女学院大学人間科学部）
- 話題提供：「精神療法からみた母子関係の修復（回復）過程」小林隆児（西南学院大学人間科学部）  
「『愛着』概念の心理療法—愛着からの解放とレジリエンス」田中康裕（京都大学大学院教育学研究科）  
「愛着の傷つきと、子どもの resilience—児童養護施設の心理職に見えるものとして—」内海新祐（川和児童ホーム）
- 指定討論：大藪 泰（早稲田大学文学学術院）

会誌「日本乳幼児医学・心理学研究」

（年2回）の発行

第24巻1号（6月）：第24回大会特集

会長講演「種、社会文化を越えて育つ子どもの発達」竹下秀子

特別講演「多言語多文化環境で育つ幼児の言語と社会性の発達」松井智子

シンポジウム：未来につなごう多文化子育て

「シンポジウムの趣旨とまとめ」竹下秀子

「在日ブラジル人妊産婦サポートを通しての課題」畑下博世

「複数言語環境で育つ子どもの日本語習得と保育—滋賀県外国人集住地域認可保育所在籍児の実状—」鈴木祥子

「鈴鹿市の日本語教育の取り組み」中川智子

第24巻2号（12月）：特集「乳幼児の問題行動」

「定型発達に見られる感覚過敏」熊寄博一

「定型発達の子どものみられる一時的で予後良好な問題行動」宮脇 大

「乳幼児期の「甘え」体験とそれにまつわる問題行動」小林隆児

「子どもの偏食と親子関係、食の外部化との関連」長谷川智子

「選択性緘黙—療育センターでの臨床経験から—」原 仁

「乳幼児の問題行動—攻撃性：噛み付き・つねり・暴力—」吉川 徹

「情動制御の発達とその困難：乳幼児期・就学前期のかんしゃく発作」土岐祥子ら

#### （4）日本小児精神神経学会

事務局：一般社団法人日本小児精神神経学会事務局

住 所：〒102-0075

東京都千代田区三番町7-1

朝日三番町プラザ408号

株式会社アークメディア内

TEL : 03-6272-6516 FAX : 03-5210-0874

e-mail : jsppn@arcmedium.co.jp

URL : <http://www.jsppn.jp/>

代表者：宮本信也理事長

会員数：1,402人（平成28年6月21日現在）

##### 【平成27年度活動状況】

- 日本小児精神神経学会は、昭和35年（1960年）に小児精神神経学研究会として発足し、平成4年（1992年）に学会となり、現在の日本小児精神神経学会となりました。設立から50年以上が経過し、小児の発達や心の問題に関する学会としては、わが国でも最も長い歴史を持つ学会の一つです。

現在、日本小児精神神経学会では、発達障害と愛着障害が大きなテーマとして議論されることが多くなっています。しかしながら、もちろん、本学会が対象とするのはこの2つに限定されるものではありません。小児精神神経学は、字義通りにとらえるならば、小児の精神と神経の問題を広く対象とするといえます。しかし、日本小児科学会の分科会としての本学会の立場は、「精神」の問題として主な対象とするのは発達と行動の問題であり、「神経」の問題として主な対象とするのは神経学的異常や神経疾患に伴う発達や行動の間

題である、といえるでしょう。

平成27年度の活動内容について報告します。

- 学術集会の開催：例年どおり2回開催しました。6月には東京都で米山明会長、大会テーマ「今、「療育」を考える」で行い参加人数は516名、10月には宮城県で福地成会長、大会テーマ「こころのケアを再考する」で行い参加人数は281名、と何れも盛況でした。学術集会時には、学会セミナーを開催しており、内容はそれぞれ、長瀬美香先生「明日からやってみよう！ベアレント・トレーニングの手法を用いたスタッフ支援」と、林みづ穂先生「災害後の子どものこころの反応とその対応」でした。
- 機関誌の発行：例年どおり学会誌「小児の精神と神経」を年4回発行しました。
- 学会認定医制度：日本小児精神神経学会の会員医師を対象に、認定医制度を行っています。審査は年2回行われ、現在の認定医数は293名です。

### (5) 日本小児神経学会

学会名：一般社団法人日本小児神経学会

事務局住所：〒162-0055

東京都新宿区余丁町8-16

ネオメディピア4階

TEL：03-3351-4125 FAX：03-3351-4067

e-mail：childneuro@nifty.com

URL：http://child-neuro-jp.org

代表者：高橋孝雄理事長

慶應義塾大学医学部小児科教授

会員数：約3,800名

#### 【平成27年度活動状況】

2015年5/28-30 第57回日本小児神経学会学術集会を帝国ホテル大阪（大阪）で開催、参加者総数は2,170名。

2015年10/3 第20回専門医試験を都市センターホテル（東京）で実施、合格者46名、合格率85.2%

2015年11/21-23 第45回日本小児神経学セミナーをホテルコスモスクエア国際交流センター

（大阪）で開催、受講者数は152名。

2015年8/30第12回「医療的ケア」研修セミナーを鳥取大学（鳥取）で開催、受講者数は183名。

2016年2/28 第10回プライマリケア医（小児科医、総合診療医）のための子どもの心の診療セミナーをボルファートとやま（富山）で開催、受講者数は120名。

和文学会誌「脳と発達」第47巻第1～6号（診断と治療社）、英文学会誌 Brain & Development Volume 37 Issue 1～10（エルゼビア社）、小児神経学の進歩・第45集（診断と治療社）を発行した。

### (6) 日本小児心身医学会

学会名：一般社団法人日本小児心身医学会

事務局住所：〒606-8305

京都市左京区吉田河原町14

近畿地方発明センター

（有）知人社内

TEL：075-771-1373 FAX：075-771-1510

e-mail：shonisinsin@chijin.co.jp

URL：http://www.jisinsin.jp/index.htm

代表者：理事長 村上佳津美

会員数：1,218名

#### 【平成27年度活動状況】

日本小児心身医学会は、昭和58年に日本小児心身医学研究会と称して第1回の学術集会を開催し、第7回に日本小児心身医学会と名称変更し今日に至ります。近年、子どもの心の問題の増加が指摘される中で会員数は1200名を超え、この領域への関心の高さを反映するとともに、活発な活動の源となっています。

平成27年度は、「みんなで育む子どもの心とからだ～子どもから大人へ」をテーマに、第33回学術集会が藤田之彦大会長（日本大学医学部医学教育企画・推進室教授、日本大学医学部附属板橋病院小児科）のもとで開催されました。研修委員会によるイブニングセミナーでは、「子どもの摂食障害：新しいガイドラインを活用して実践的診療のノウハウを学ぼう」を目的

として、ロールプレイを含めた実践的な研修を行いました。地方会活動も活発に行われており、北海道・東北・関東甲信越・東海北陸・関西・中国四国・九州沖縄の7つの地域で地方会を開催しました。

本学会の特徴として、小児の心身医学の普及・教育と共に、アウトカム研究をはじめとする研究活動があります。各ワーキンググループの研究成果として、ガイドライン集の改定が行われ、7月に「小児心身医学会ガイドライン集—日常診療に活かす5つのガイドライン」が発刊されました。

会員の方への情報提供として、学会誌は年4回に発行し、原著論文はもとより臨床に役立つ実践的な内容を掲載しています。また、ホームページには、診療に役立つ情報のお知らせや研修用ビデオプログラムのアップなども行い、会員の方が自己学習できるような支援を行っています。認定医制度についても、第6回の認定医試験が終了し、全体で104名の方が認定医として認定されています。

今後も、心と身体をつなぐ診療を実践できるような活動して参りますので、皆様のご支援ご参加をよろしく願います。

## (7) 日本青年期精神療学会

学会名：日本青年期精神療学会

Japanese Association of Adolescent  
Psychotherapy

事務局住所：〒259-1193

神奈川県伊勢原市下糟屋143  
東海大学医学部専門診療学系精神  
科

TEL：なし FAX：0463-94-5532

e-mail：jjap-office@tsc.u-tokai.ac.jp

代表者：＜理事長＞松本英夫

事務局長：大西雄一

会員数：180名（2016年1月31日現在）

### 【平成27年度活動状況】

本学会は、会員数においては小規模であるものの、30年以上の歴史を持つ組織である。1960

年代半ばから本邦において青年期精神医学に対する関心が急速に高まってきたことを受けて、1980年に大阪で「青年期精神医学研究会」を開催したことから本学会は始まった。第2回は名古屋市で開催され「青年期精神医学交流会」と正式に名称が定められた。2年の空白をはさんで第3回が開催され1999年の第17回まで続いたが、交流会の世話人による議論の後に2000年の第18回から現在の「日本青年期精神療学会」に移行することになった。機関誌の第1巻創刊号の刊行は翌年の2001年からである。学会組織になった後も交流会のよさを保っていくことが会員間の共通認識としてあり維持され続けている。すなわち、臨床現場の息吹が感じられる報告、初心者・中堅・ベテランを問わず自由に参加できる討論、参加者がそのまま自分の臨床現場に持ち帰ることができるもの、参加者を鼓舞し刺激するものが溢れる会、などである。そのため総会は症例検討が中心であり、各演題の発表時間は質疑を含めて最低でも30分を充てている。特に公開スーパーバイズにおいては、1時間以上かけて議論が行われており、学会発表において十分な症例検討がなされる機会が極端に減って久しい現在では希少な学会と言える。

第33回総会は笠原麻里会長（駒木野病院児童精神科）のもと、2015年11月28日、29日に八王子市のホテル ザ・ビー八王子において「子どもが大人になるということ」をテーマに開催された。102名の参加者があり青年期の精神療法をめぐり文字通り活発な討論が行われた。第34回総会は平村英寿会長（長嶺南クリニック院長）のもと2016年11月19日、20日の2日間、熊本市の国立病院機構熊本医療センターで開催される予定である。

（大西雄一・松本英夫）

## (8) 日本摂食障害学会

事務局：株式会社メッド内 担当：白神昌子  
住所：〒701-0114岡山県倉敷市松島1075-3  
TEL：086-463-5344 FAX：086-463-5345  
e-mail：jimu@jsed.org

URL : <http://www.jsed.org/index.html>

代表者：<理事長>石川俊男（独立行政法人国立国際医療研究センター国府台病院心療内科特任診療部長）

世話人：なし

会員数：474名

#### 【平成27年度の活動状況】

今年度は、須藤信行会長（九州大学大学院医学研究院心身医学）のもとで、第19回日本摂食障害学会学術集会が平成27年10月24日～25日にパピヨン24（福岡市）で開催された。今回は単独での開催であったが、古くからの心療内科のメッカである九大、福岡での開催ということで盛んな盛り上がりを見せた。昨年度新任した石川俊男理事長のもと、様々に活発に学会活動が行われ、一方で学会員による摂食障害（ED）に関する新たな展開がみられた一年であった。学会活動としては、今年度の大きな成果としてはAED（The Academy for Eating Disorders）の協力組織として正式に参加することを決めたことである。AEDは世界の47カ国から1600名以上の会員を持つEDの研究と臨床に関する国際的な組織である。国際交流委員会（西園委員長）を中心に交渉が行われ、担当理事に吉内理事に就任していただいた。これまで各組織（大学、病院、研究施設など）や個人的な形で国際交流してきた我が国のEDの研究と臨床であるが、今後は学会をあげての国際交流参加となり、我が国のED研究と臨床の発展に大いに貢献していく道筋となることが期待される。ちなみに今年度はイタリアで行われたED関連の国際学会でAEDの委員会が行われ千葉大学の中里教授に代表として出席していただいていた。他の活動も含め、その内容については4月（No.17）と9月（No.18）に刊行されたニュースレターに詳しく掲載されている。

昨年度からスタートした厚労省・地方自治体による「摂食障害治療支援センター」構想では、とりあえず全国で3県の自治体が手を上げて予算の獲得が得られセンター構想が具体的にスタートした。画期的なことであるが、今後も地域

のセンターの全国展開をめざした活動が期待される。ちなみに現在地域のセンターとして宮城、静岡、福岡の各県でスタートしたがそれぞれ、東北大学心療内科、浜松医科大学精神科、九州大学心療内科がセンター施設としており、本学会員がその中核メンバーである。また、同時並行的に動き始めた平成27年度厚労省科研費補助金「摂食障害の診療体制整備に対する研究」研究班（安藤哲也主任研究者）では、多くの本学会員が分担研究者等として参加しており、摂食障害の診療体制の整備に本格的に関わるべく研究（3年間の予定）が活動期に入って研究実績が重ねられつつある。

### （9）日本発達障害学会

事務局住所：〒114-0015

東京都北区中里1-9-10

パレドール六義園北402号室

TEL/FAX : 03-5814-8022

e-mail : [office@jasdd.org](mailto:office@jasdd.org)

URL : <http://www.jasdd.org>

代表者：<理事長>菅野 敦

事務局長：霜田浩信

会員数：2,090名（平成28年現在）

#### 【平成27年度活動状況】

日本発達障害学会は、発達障害者の教育・医療・福祉・労働などの多領域・複合領域による学術研究団体である。

本学会は2015年に創立50周年を迎えた。学会創立50周年記念大会として2015年7月4（土）～5日（日）東京学芸大学（武蔵小金井市）にて開催された。50周年記念シンポジウム「発達障害児者支援に関する研究と施策のこれから」、子育て支援セミナーを実施した。今年の第51回研究大会は、2016年8月27日（土）～28日（日）京都教育大学（実行委員長：郷間英世）にて開催予定であり、「共生社会を目指した発達支援を考える」を大会メインテーマとして講演、シンポジウムの他、実践・研究レクチャー（重度重複障害教育30年、精神シ分析からみた発達障害など）などを予定している。

2015～16年にかけての機関誌特集テーマは、「障害者虐待防止法の現在」「自閉スペクトラム症者における感覚過敏」「障害児の就学支援」「心理教育的アセスメント」等である。

本会は国際知的・発達障害学会（IASSIDD）の日本支部でもある。知的障害と発達障害を同じ研究分野や支援領域として扱っていく世界的潮流の中で、本学会においても知的・発達障害者への総合的・包括的な研究を支援している。近年の動向として「障害者総合福祉法」「障害者虐待防止法」「障害者権利条約（合理的配慮）」「DSM-5」による情勢変化やフォローが検討されており、最新の支援研究を本学会では推進している。2016年8月15～19日にオーストラリアのメルボルンにて第15回国際知的・発達障害学会が開催され、多くの日本からの発表を予定している。

また、我が国における発達障害者への支援ニーズの今日的な高まりを受けて、本学会では医療従事者・教育者・支援者などの専門性向上やその理解のために、「臨床心理士」「学校心理士」「児童青年精神医学会認定医」「小児神経学会専門医」の資格研修（ポイント）や認定に協力している。

## (10) 日本 LD 学会

学会名：一般社団法人日本 LD 学会

事務局住所：〒108-0074

東京都港区高輪3-24-18

高輪エンパイヤビル8F

TEL : 03-6721-6840

FAX : 03-6721-6841

e-mail : office@jald.or.jp

URL : <http://www.jald.or.jp>

代表者：＜理事長＞柘植雅義

事務局長：緒方明子

会員数：8,979名

### 【平成27年度活動状況】

日本 LD 学会は、LD とその近隣概念をきちんと理解し、そうした状態にある人々への科学的で、適切な発達支援を考えるために、教育、

心理、医療等に携わる専門家や教師、そして保護者によって、1992年に設立された学術研究団体です。2009年4月1日に法人化し、「一般社団法人日本 LD 学会」となりました。

会員数は2016年4月1日時点で8,979名、名誉会員18名、機関会員・賛助会員合わせて50機関となっています。

2015年10月には「学びの継続と共生社会—アセスメントと学習支援を基盤として—」をテーマとして、第24回大会（佐賀）を福岡国際会議場にて開催致しました。会員・非会員合わせて、約2,500名の参加者がありました。全国から参加頂き、盛況な大会となりましたことを、ご報告・御礼申し上げます。

また、同年12月に開催された2015公開シンポジウム（東京）では「発達障害のある大学生の就労支援の現状とこれから—発達障害学生の最新就職事情—」をテーマとし、基調講演・シンポジウムを行いました。会員・非会員合わせて約350名の参加者がありました。

第25回大会（東京）は、2016年11月18日（金）～20日（日）の3日間、パシフィコ横浜を会場に開催いたします。テーマを「発達障害の子どもと家族—学習・行動・心の包括的理解と支援—」とし、より多くの方に足を運んでいただけるよう準備をすすめております。どうぞ皆様のご参加をお待ちしております。詳細については、本学会 HP (<http://www.jald.or.jp>) をご覧ください。

## (11) 日本自閉症スペクトラム学会

学会名：NPO 法人日本自閉症スペクトラム支援協会

日本自閉症スペクトラム学会

事務局：日本自閉症スペクトラム学会事務局

住所：〒273-0866

千葉県船橋市夏見台3-15-18

TEL : 047-430-2010 FAX : 047-430-2019

e-mail : shikaku@autistic-spectrum.jp

URL : <http://www.autistic-spectrum.jp/>

代表者：＜会長＞市川宏伸

事務局長：寺山千代子

会員数：2,908名（平成28年7月14日現在）

#### 【平成27年度活動状況】

学会の年間活動として、資格認定講座、資格取得者のための研修会、研究大会を開催し、学会誌『自閉症スペクトラム研究』、「会報」を発行している。

平成27年度の資格認定講座は、東海・北陸支部では6月27・28日に名古屋 AT ビルで、第25回講座は8月8・9日に白百合女子大学で、東北支部では9月12・13日にホテルルイズで、近畿支部では10月24・25日に新梅田研修センターで、九州支部では11月21・22日に鹿児島大学で、中国支部では11月28・29日ピュアリティまきびで、第26回講座は12月12・13日に白百合女子大学でそれぞれ開催した。

資格取得者のための研修会は、AS サポーター、STANDARD, ADVANCED, EXPERT の資格のうち、ADVANCED, EXPERT 取得者のための研修会で、年1回、実施している。平成27年度は、10月3日に自閉症総合援助センターあさけ学園（三重県）で開催した。講座と施設・日中活動等の見学を実施し、意見交換を行った。

第14回研究大会は、8月22・23日に「自閉症児・者に対して地域の特性を生かした支援のあり方を考える」を大会テーマとし、札幌学院大学で開催した。大会会長板垣裕彦氏と牧野誠一氏による「北海道における自閉症児への支援の歴史—主に教育の面から—」と題して講演が行われた。また、大会記念講演として安達潤氏による「ペアレントメンターについて」の講演、杉山登志郎氏による「自閉症の発達精神病理学」の講演、田中康夫氏による「自閉症児者と精神療法」の講演が行われた。また、学会企画シンポジウム、大会企画シンポジウム、自主シンポジウム、口頭発表、ポスター発表があり、意義深い大会となった。

研究成果のまとめとして、9月に学会誌『自閉症スペクトラム研究 第13巻1号』を、平成28年2月に、『自閉症スペクトラム研究 第13巻

2号』を発刊した。また、「会報」を年3回発行した。

## (12) 日本精神病理学会

事務局住所：〒565-0871

大阪府吹田市山田丘2番2号D3

大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室

TEL : 06-6879-3056 FAX : 06-6877-7430

e-mail : info@psychopathology.jp

URL : http://www.psychopathology.jp/

代表者：＜理事長＞中安信夫

事務局長：小笠原將之

会員数：653名

#### 【平成27年度活動状況】

本学会は、昭和53年に誕生した「精神病理懇話会」が発展的に学会組織化されて昭和63年に発足したものである。呼称は平成16年に一旦「日本精神病理・精神療学会」に変更されたが、平成25年に現在の名称に復している。

本学会の主な活動内容は、機関誌の刊行と年次学術集会（大会）の開催である。

本学会の機関誌『臨床精神病理』は、平成27年度中には第36巻第1号から第3号まで（年3回）を予定通り刊行した。

本学会第38回大会は、平成27年10月9・10日の両日に互り、兼本浩祐大会長（愛知医科大学）の許、今池ガスビル（名古屋市）にて開催された。当該大会に於いては、会長講演として兼本浩祐氏による「こころはどこまで脳なのか—脳による心の形の制約について」、特別講演として定藤規弘氏（生理学研究所）による「間主観性（inter-subjectivity）の脳的基盤」、教育講演として小川豊昭氏（名古屋大学）による「精神分析と消滅の不安—悪夢について」が持たれた他、シンポジウム2席（「精神療法と精神病理」「脳科学と精神病理」）、ワークショップ（「他分野からの提言」）、さらに一般演題38題と、大変充実した内容であり、いずれも活発な議論が交わされ、成功裡に閉幕した。

第39回大会は、生田孝大会長（聖隷浜松病

院)の許、平成28年10月7・8日にアクトシティ浜松コンgresセンター(静岡県浜松市)にて開催される予定である。

### (13) 日本精神分析学会

### (14) 国際学会 (IACAPAP, ASCAPAP, ESCAP, AACAP, WAIMH など)

### (15) 関東子ども精神保健学会

事務局：クリニック川端内

住 所：〒156-0051

東京都世田谷区宮坂3-13-6

すずらん会館201

TEL : 03-5477-6915

e-mail : kantoukodom@gmail.com

代表者：<理事長>川畑友二

事務局長：山田佐登留

会員数：114名

#### 【平成27年度活動状況】

平成27年10月11日(日)に小倉担当理事、川畑担当理事のもと経堂すずらん会館にて事例検討会を行った。事例は、「PTSDと診断された女兒とのプレイセラピー」で活発な討論がなされた。平成28年3月13日(日)に金生由紀子会長のもと経堂すずらん会館にて「くせとこだわりの理解と対応」をメインテーマに40名程の参加のもと第13回学術集会を行った。第13回学術集会プログラムは、①会長講演「くせとこだわりの理解と対応」②教育講演「強迫症と自閉スペクトラム症」中川彰子(千葉大学子どものこころの発達教育研究センター)③シンポジウム「くせとこだわりをめぐる」1.「心理の立場から一発達障害系こだわりプロジェクトについて」藤尾未由希(東京大学大学院教育学研究科)2.「教育の立場から一学校生活の中でのくせやこだわりのプラスとマイナス」有澤直人(江戸川区立立本一色小学校)3.「福祉の立場から一発達障害者(児)の支援を通じて」藤平

俊幸(埼玉県発達障害者支援センター「まほろば」)であった。

28年10月2日に事例検討会を、29年3月12日に第14回学術集会を小野和哉会長のもと開催予定である。

### (16) 東京児童青年臨床精神医学会

### (17) 近畿児童青年精神保健懇話会

事務局：関西医科大学精神神経科

住 所：〒570-8506

大阪府守口市文園町10-15

TEL : 06-6993-9470 FAX : 06-6995-2669

e-mail : knkjidou@takii.kmu.ac.jp

代表者：木下利彦

会 長：長尾圭造

会員数：600名

【平成27年度活動報告・平成28年度活動計画書】

第53回：平成27年8月22日(土)

会 場：関西医科大学附属滝井病院 本館6階 臨床講堂

メインテーマ：「子どもの依存—スマホ・ゲーム依存—」

#### 第1部

司会：水田一郎先生(大阪大学保健センター学生相談室)

田中 究先生(神戸大学大学院医学系研究科精神医学分野)

#### 【講演1】

「ひとりが怖い!~スマホ依存の虚と実~」

講師：土井隆義先生(筑波大学人文社会系社会学研究室)

#### 【講演2】

「スマホとSNS時代における子ども達のネット依存は」

講師：桑崎 剛先生(内閣府ネット環境整備普及啓発検討会議委員長)

#### 第2部

司会：水田一郎先生(大阪大学保健センター学生相談室)



田中 究先生（神戸大学大学院医学系研  
究科精神医学分野）

【講演3】

「青少年のネット依存とその対処」

講師：中山秀紀先生（久里浜医療センター）

第3部

【シンポジウムまとめ】

講師：長尾圭造先生（長尾こころのクリニック）

【分科会】

～グループ討論会～

【総合討論】

司会：水田一郎先生（大阪大学保健センター学  
生相談室）

田中 究先生（神戸大学大学院医学系研  
究科 精神医学分野）

（参加者約：110名）

### (18) 北海道児童青年精神保健学会

事務局：(株) コンベンションワークス内

住 所：〒003-0809

札幌市白石区菊水9条3丁目1-17

TEL：011-827-7745 FAX：011-827-7769

e-mail：h-jidoseinen@conv-s.com

URL：http://h-jidoseinen.conv-s.com/

代表者：＜会長＞氏家 武

事務局長：柳生一白

会員数：165名

【平成27年度活動状況】

＜例会・研修会＞

第31回研修会（2015年9月6日）

於：札幌医科大学記念ホール

午前の部：特別講演 講師：氏家 武先生（北  
海道こども心療内科氏家医院 院長）  
「乳幼児精神医学からみた自閉症の  
成り立ちと対応」

午後の部：シンポジウム

「乳幼児と家族への支援について」

参加者：51名

第40回例会（2016年2月21日）

於：北海道大学大学院保健科学研究院 E 棟 1

階多目的室

午前の部：特別講演 講師：河西 千秋先生  
（札幌医科大学医学部神経精神医学  
講座 教授）

「ケース・マネジメント介入は自殺  
未遂者の自殺再企図を抑止する：自  
殺対策のための戦略研究 ACTION-  
Jの成果」

午後の部：一般演題 4題

参加者：43名

### (19) 国立精神・神経センター 精神保健研究所

#### （発達障害支援のための医学課程研修）

研究会名：発達障害支援のための医学課程研修  
（発達障害支援医学研修）

事務局：国立精神・神経医療研究センター精神  
保健研究所知的障害研究部

住 所：〒187-8553

東京都小平市小川東町4-1-1

TEL：042-346-2157 FAX：042-346-2158

e-mail：dhp09@ncnp.go.jp

課程主任：稲垣真澄（日本児童青年精神医学会  
会員）

副主任：加賀佳美，北 洋輔

会員数：60名

【平成27年度活動状況】

本研修課程は、発達障害の積極的な支援につ  
ながる知識や技能の獲得をめざして、発達障害  
に関心のある医師とくに指導について責任的立  
場にある精神科医師、小児科医師を対象とする。

内容は、発達障害者支援法の理解、神経発達  
症群の中で自閉スペクトラム症、注意欠如・多  
動症、限局性学習症、発達性協調運動症の医学  
的診断と治療に関わる講義を行い、講義終了毎  
に理解度の確認テストをしている。

平成27年度は平成27年7月（第19回）と28年  
1月（第20回）の2回に分けて開催した。テー  
マは、支援施策、治療支援の考え方、地域にお  
ける支援の取り組み（プライマリケア医のため  
のチェックリスト）、合理的配慮、成人 ADHD

の診断治療、学習障害の診断治療、学習障害児の ICT 活用の実際、発達障害の薬物治療（不安やうつに対して）、ADHD 児の診方、チック・トゥレット症候群の診断と支援、ペアレントトレーニングの要点、アセスメントツールの選び方、神経心理検査の解釈（WISC-IV）、それらが精神科や小児科の専門家ならびに教育学者などから構成される講師群によって紹介され、聴講生からの熱心な質問がみられた。

## (20) 日本司法精神医学会

学会名：日本司法精神医学会

Japanese Society of Forensic Mental Health

事務局＜入退会・年会費・住所変更等担当＞：

〒169-0072 東京都新宿区大久保2-4-12

新宿ラムダックスビル 9階

株式会社春恒社 学会事務部内

TEL：03-5291-6231 FAX：03-5291-2176

e-mail：jsfmh@shunkosha.com

学会本部＜上記以外の業務担当＞：

〒260-8670 千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学社会精神保健教育研究センター法システム研究部門内

TEL/FAX：043-226-2538

e-mail：jsfmh2005@yahoo.co.jp

URL：http://www.jsfmh.org/index.html

代表者：＜理事長＞中島豊爾

事務局長：五十嵐禎人

会員数：740名

### 【平成27年度活動状況】

第11回大会は2015年6月19～20日に国立病院機構東尾張病院舟橋龍秀監事を会長として、「司法精神医学の深化と専門性」を基本テーマに、愛知県産業労働センター「ウインクあいち」で開催された。講演は、会長講演「刑事責任能力鑑定の経験から」、特別講演「＜黙過＞の深層―ドストエフスキーにとって悪とは何か」、教育講演「統合失調症の認知行動療法」の3つであった。シンポジウムは「触法精神障害者の責任の諸相」、「回復のためのアセスメン

ト―職種専門性を生かして―」、「『刑の一部執行猶予』制度とどう向き合うか―その内容と精神医療サイド等からみた課題」、「少年の問題行動を取り巻く制度・教育・治療」の4つが開催された。今回の大会は、著名なロシア文学者である亀山郁夫先生によるドストエフスキーにおける「罪」に関する特別講演をはじめ、精神病理学、児童精神医学に関する長い伝統を有する名古屋ならではの内容であった。一般演題は53題で、精神鑑定や医療観察法における処遇などを中心に幅広い分野の報告がなされ、参加者は406名であった。また、「鈴木裕樹研究基金」助成事業の第8回受賞者である野村照幸会員（国立病院機構さいがた医療センター）から研究成果の報告がなされ、第9回受賞者である今井淳司会員（東京都立松沢病院）が総会で表彰された。

研修・教育企画委員会主催で開催される第7回「刑事精神鑑定ワークショップ」は、第11回大会終了後の6月20日に事例検討が、12月12日、13日に講義が開催された。また、学会認定精神鑑定医制度の第2回試験が実施され、8名が合格した。

## (21) 千葉児童思春期精神医学研究会

事務局：国立国際医療研究センター国府台病院

住所：〒272-8516

千葉県市川市国府台1-7-1

TEL：047-372-3501

代表者：＜会長＞渡部京太

世話人：青木聡美（千葉県中央児童相談所）、

安藤咲穂（千葉県こども病院）、磯野

友厚（総合病院国保旭中央病院）、井

山綾子（千葉市児童相談所）、宇佐美

政英（国立国際医療研究センター国府

台病院）、篠田直之（千葉市立青葉病

院）、中里道子（千葉大学子どものこ

ころの発達教育研究センター）

事務局長：宇佐美政英

会員数：166名

### 【平成27年度活動状況】

2016年1月10日、千葉県文化会館 小ホール

にて、第23回千葉児童思春期精神医学研究会を行った。幹事施設は、千葉県こども病院であった。

一般演題は、以下の7演題であった。

演題1「養護教諭を対象としたアンケート調査から：子どもの摂食障害の早期発見と支援体制作りに向けて」

清家かおる，花澤寿，大溪俊幸，中里道子（千葉大学子どものこころの発達教育研究センター）

演題2「思春期反応性愛着障害児の一般病棟内マネジメント～事例からみえた精神科介入の課題～」

敦賀壮太，横田瑛子，井原祐子，花岡晋平，安藤咲穂（千葉県こども病院）

演題3「一時保護児童へのブレインジムの活用」  
関口新太郎（東上総児童相談所）

演題4「反抗挑戦性障害を合併したADHD 女児に対するリスペリドン持続性注射剤を使用した一例」

大石賢吾，佐々木剛，鎌田雄，岡東歩美，田村真樹，伊豫雅臣（千葉大学医学部附属病院 精神神経科）

演題5「自殺企図に至った診断に苦慮した14歳男児の一例」

関根慶輔，牛島洋景，田中徹哉，岩垂喜貴，宇佐美政英，渡部京太（国立国際医療研究センター国府台病院）

演題6「頻回に解離・自傷を起こす中学生女児の入院治療」

山崎史暁，篠田直之，小池友紀，中嶋敦子（千葉市立青葉病院）

演題7「被虐待が疑われる男児へのプレイセラピー～多職種連携の中で～」

菊池綾子，長谷川信也，仙田昌義，木脇和利，名雪和美，青木勉（総合病院国保旭中央病院）

第二部は、記念講演として中央児童相談所 森山直人所長による、「児童福祉から見た心理療法モデル～二者関係から三者関係へ～」と題した講演が行われた。

第三部は、特別講演として国立研究開発法人 国立成育医療研究センター 奥山真紀子先生による「子ども虐待～子どもと親のケア～」と題した講演が行われた。

## (22) 東京子どものメンタルヘルス研究会

事務局：日本医科大学精神医学教室内

住 所：〒113-8603

東京都文京区千駄木1-1-5

TEL : 03-3822-2131

代表世話人：市川宏伸

世話人：星加明徳，奥山真紀子，内山登紀夫，  
齊藤万比古，金生由紀子，横山富士男，  
小野和哉，朝倉 新，端詰勝敬，中村  
道子，大下隆司，川崎葉子，石崎朝世，  
米山明，成重竜一郎

会員数：70名

### 【平成27年度活動状況】

平成27年度は平成27年7月13日に第21回研究会，平成28年2月17日に第22回研究会をいずれも東京ガーデンパレスにおいて開催した。第21回研究会は「発達障害支援～子どもから大人への移行について～」(演者：心身障害児総合医療療育センター小児科医長 米山明先生)，「大人の発達障害について」(演者：東京都立小児総合医療センター顧問 市川宏伸先生)の2演題の講演を行った。第22回研究会は「行動障害～医療と福祉の連携～」というテーマの下に，「障害福祉分野における強度行動障害者支援の現状と課題」(演者：独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園 志賀利一先生)，「発達障害と脳波」(演者：東京慈恵会医科大学臨床検査医学講座教授 須江洋成先生)，「外来での実際の対応」(演者：東京小児療育病院吉野邦夫先生)の3演題の講演及び総合討論を行った。

## (23) 愛知児童青年精神医学会

事務局：名古屋大学心の発達支援研究実践センター

住 所：〒464-8601

名古屋市千種区不老町  
 TEL : 052-789-2611 FAX : 052-747-6522  
 e-mail : ascap-office@umin.ac.jp  
 URL : <http://ascap.umin.jp/ASCAP/index.html>  
 代表者：(理事長) 本城秀次  
 事務局長：野呂健二  
 会員数：95名

#### 【平成27年度の活動状況】

第7回学術総会を、平野千晶会長（医療法人成精会刈谷病院）のもと、平成28年3月13日（日）に刈谷市産業振興センター7階小ホールにて実施した。

- 一般口演4題
- 大会長講演「地域の視点からとらえる児童青年精神科医療～刈谷病院の実践～」  
医療法人成精会刈谷病院 平野千晶
- 特別講演「地域における子どもの精神保健ネットワークのあり方について」  
静岡県立こども病院こころの診療センター 山崎 透

### (24) 九州児童青年精神医学懇話会

事務局：九州大学病院子どものこころの診療部  
 住 所：〒812-8582  
 福岡市東区馬出3-1-1  
 TEL : 092-642-5624 FAX : 092-642-5644  
 e-mail : h-yama03@npsych.med.kyushu-u.ac.jp  
 (備考：事務局は九州大学病院と肥前精神医療センターで1年毎に持ち回りで担当)  
 会 長：小林隆児（西南学院大学）  
 副会長：藤林武史（福岡市子ども総合相談センター）  
 事務局長：山下 洋（九州大学病院子どものこころの診療部）  
 会員数：73名

#### 【平成27年度活動状況】

##### ①定例総会（症例検討含む）

日 時：平成27年4月4日（土）15時～18時  
 会 場：福岡市博多区リファレンス駅ビル会議室  
 症 例：「殺人願望を持つこどもたちに我々

は何かできるのか、事例を通して検討する」

発表者：八ッ賀 千穂（肥前精神医療センター）

総 会：平成26年度の活動報告及び会計監査、平成27年度の事務局、活動計画

##### ②定例会

日 時：平成27年9月5日（土）15：00～18：00

会 場：福岡市東区 九州大学病院 ウェストウイング カンファレンスルーム

症 例：「思春期の統合失調症の治療」

発表者：藤部真亮（福岡市立こども病院）

スーパーバイザー：武井庸郎（香椎療養所）

話題提供：「幼児期の自閉症スペクトラム障害の発達と共同注意行動」

発表者：佐竹宏之（福岡市東部療育センター）

司 会：宮崎 仁（福岡市立こども病院）

##### ③定例会

日 時：平成27年12月5日（土）17：00～19：00

会 場：福岡市城南区 なかにわメンタルクリニック

症 例：「仮眠を主訴とした発達障害の症例について」

発表者：丸山沙紀（九州大学人間環境学府）

### (25) 児童精神薬物治療研究会

### (26) 日本 ADHD 学会

事務局：株式会社ケイ・コンベンション内  
 住 所：〒160-0022  
 東京都新宿区新宿1-27-2  
 山本ビル2階  
 TEL : 03-5367-2382 FAX : 03-5367-2187  
 e-mail : secretariat@is-adhd.org  
 URL : <http://www.js-adhd.org/index.html>  
 代表者：<会長> 齊藤万比古  
 事務局長：小野和哉  
 会員数201名（2015年12月31日現在）

## 【平成27年度活動状況】

日本 ADHD 学会第 6 回総会

開催日：2015年 3月 7日（土）、8日（日）

開催地：立正大学品川キャンパス（東京都品川区）

第 6 回会長：齊藤卓弥（北海道大学大学院医学研究科）

テーマ：新たな枠組みの中での ADHD の診断・治療

参加人数145名（有料参加）

日本 ADHD 学会主催第 2 回児童思春期精神医学夏季セミナー北海道大会

開催日：2015年 8月 8日（土）、9日（日）

開催地：小樽朝里クラッセホテル（北海道）

参加人数：36名（医師：31名、学生 5名）

印刷物の制作・配布

日本 ADHD 学会主催「第 1 回児童思春期精神医学夏季セミナー北海道大会」

報告書（85ページ）の制作、会員へ配布。

### （27）日本線維筋痛症学会

学会名：一般社団法人日本線維筋痛症学会

事務局住所：〒160-8402

東京都新宿区新宿6-1-1

東京医科大学医学総合研究所所長室内

TEL：03-3580-5765 FAX：03-3580-8533

e-mail：jcfi.network@jcfi.jp

URL：http://jcfi.jp/index.html

代表者：＜理事長＞西岡久寿樹

事務局長：中村郁朗

会員数：約300名

## 【平成27年度活動状況】

平成27年10月 3日～4日まで第 7 回学術集会を開催致しました。

ホームページ上では「線維筋痛症診療ネットワーク」の検索システムを構築、運営しております。

また、会員専用サイトではニュースレターや

サイエンストピックスなどを掲載しております。

### （28）神奈川県児童青年精神医学研究会

学会・研究会名：神奈川県児童青年精神医学研究会

事務局：神奈川県立こども医療センター児童思春期精神科

住所：〒232-8555

神奈川県横浜市南区六ッ川2-138-4

TEL：045-711-2351 FAX：045-721-3324

e-mail：kokoro-tm@kcmc.jp

URL：なし

代表者：＜代表世話人＞新井 卓（神奈川県立こども医療センター児童思春期精神科）

世話人：内山登紀夫、大滝紀宏、清水康夫、清家洋二、高木一江、渥美義賢、生地 新、広瀬宏之、大屋彰利、高橋雄一、井上勝夫、飯田美紀、三上克央、猪子香代、原 郁子、中山 浩、西本佳世子

事務局長：南 達哉（神奈川県立こども医療センター児童思春期精神科）

会員数：142名

## 【平成27年度活動状況】

第64回研究会は平成27年 7月11日（土）に横浜市神奈川区の TKP 横浜ビジネスセンターで開催された。症例検討では北里大学医学部精神科学教室の井上勝夫医師が「気質分類 difficult child と考えられた小学生女児の治療経過」という演題で不登校、かんしゃくを主症状とする10歳女児の症例を提示した。医学的診断および気質に関する検討が行われた。ショートレクチャーでは横浜市総合リハビリテーションセンターの原 郁子医師が「政令指定都市における発達障害の早期発見・早期介入—横浜市港北区をモデル地域にした地域支援拠点（総合リハセンター）と区内小学校・特別支援学校等における調査—」という演題で横浜市における発達障害児への取り組みを紹介した。

第65回研究会は平成28年 3月15日（土）に横浜市神奈川区の TKP 横浜ビジネスセンターで開催された。症例検討は神奈川県立こども医療

センター児童思春期精神科の浅沼和哉医師が「悪態といたずらが激しい小5女児の入院治療」という演題で11歳女児の症例を提示した。ショートレクチャーでは川崎市こども家庭センターの中山浩医師が「川崎市の児童精神医療・保健体制の現状と展望」という演題で講演を行った。2回の研究会共に活発な議論が行われた。

### (29) 東北児童青年精神医学会

事務局：山形県立こころの医療センター

住 所：〒997-0019

山形県鶴岡市茅原字草見鶴51-1

TEL : 0235-64-8100 FAX : 0235-24-1283

e-mail :

pingu@prefectural-hp.tsuruoka.yamagata.jp

代表者：<会長>水保健一

事務局長：東海林岳樹

会員数：約140名

#### 【平成27年度活動状況】

第17回東北児童青年精神医学会は、平成27年6月27日に、弘前大学（弘前市）において開催された。午前中に「一般演題」9題と午後から「特別演題」として、『講演Ⅰ「現場を変えるいじめの科学」大阪大学大学院 和久田 学先生』『講演Ⅱ「学校で自殺が起こるとき～予防とポストベンションについて～」浜松市精神保健福祉センター 二宮貴至先生』が発表され、約130名の参加者を集めて熱心な交流の場が持たれた。

またその前日の26日には『評議員会』があり、改選（任期3年）にともない、新会長に水保健一（秋田県）、新副会長に神田秀人（山形県）、栗林理人（青森県）が選出され、27日の『総会』で承認された。

当学会は、現在会員数152名（平成28年3月現在）であり、昭和48年に第1回『東北児童青年精神医学懇話会』が生まれてから、平成10年に第29回を重ね、平成11年に第1回『東北児童青年精神医学会』となって現在に至る長い歴史を有している。しかも、会員は、精神科医、心理士のみならず教育・福祉関係者など児童青年

期の臨床に關与する多職種の参加を得ているのが特徴である。

東北6県の各県ともに、今後『児童青年期精神医学』を志向する臨床家としての精神科医を育てていくことが大きな課題であるが、いくつかの大学病院あるいは県の心のセンターなどの中心的な医療機関で、研修医あるいは若手医師の養成のための『研究会』や『事例検討会』などを立ち上げて、教育を活性化しようという動向が見られるようになって来ている。

### (30) 京都児童精神医学研究会

### (31) 子ども虐待防止学会

学会名：一般社団法人日本子ども虐待防止学会（JaSPCAN）

事務局住所：〒106-8580

東京都港区南麻布5-6-8

TEL/FAX : 03-3440-2581

e-mail : info@jaspcan.org

URL : http://www.jaspcan.org/

代表者：<理事長>奥山真紀子（平成27年11月の代議員総会で理事長に就任）

会員数：約2,880名（平成28年6月末現在）

#### 【平成27年度活動状況】

##### 1. 学術集会

平成27年11月20～21日の2日間、第21回学術集会にいがた大会を、新潟市朱鷺メッセにて開催。特別講演では総合研究大学院副学長の長谷川真理子氏が「親の配偶戦略と子どもの虐待」というテーマで講演した。

##### 2. 学術雑誌「子どもの虐待とネグレクト」の発行

第17巻1号：特集「消えた子ども・子どもを見失う社会」

2号：平成26年9月に開催した「子ども虐待防止世界会議 名古屋2014」を特集

3号：特集「レジリエンス再考」

##### 3. 会員向けのニューズレター発行

第38号（4月発行）「子ども虐待防止世界会議  
名古屋2014」終了報告など

第39号（11月発行）「子どもの貧困対策の推進  
に関する法律と大綱について」など

#### 4. その他の活動

- 1) 平成27年6月29日に児童相談所全国共通ダイヤルの三桁化に向けた緊急提言を厚生労働大臣に提出した。提言内容は以下の3点
  - ①児童相談所・市町村の対応職員の増員
  - ②各都道府県にコールセンターを設置しインタークを行うケースワーカーを配置
  - ③共通ダイヤルの通告に関して児童相談所と市町村の役割を明確化すること
- 2) 「施設や里親家庭で暮らしている若者のための入学支援金」事業としては、2名の候補者に給付した。

なお、平成28年11月25～26日に大阪国際会議場（グランキューブ大阪）にて、第22回学術集会おおさか大会を開催予定です。